

ついで実録を書き継いだ。これを総称して『李朝実録』といひ、李朝の歴史の体系的根本史料となっている。『李朝実録』中の琉球国関係史料については、『中国・朝鮮の史籍における日本史料集成 李朝実録之部(一)―(十一)』国書刊行会 昭和五―平成七年、および和田久徳他「李朝実録の琉球国史料(訳注)(一)―(十二)」『南島史学』三六―三九・四三―四七・四九―五一号 平成二十十年を、『李朝実録』の刊本や『李朝実録』を利用した研究については「李朝実録の琉球国史料(訳注)(二)」の解題を参照のこと。なお朝鮮国に関連する文書の訳注には朝鮮総督府『朝鮮語辞典』大正九年、復刻 国書刊行会 昭和四十九年、を参照した。

- (2) 李禔 第四代国王、世宗。在位一四二八―一五〇年。
- (3) 奉復す ご返事申し上げます、の意。
- (4) 寡人 王侯の自称の謙辞。
- (5) 保重 自重。身を大切にす。
- (6) 満花席 花模様を織りこんだ敷物。
- (7) 人参 朝鮮人参。ウコギ科の多年草。薬用とする。
- (8) 松子 松の実。食用とする。

朝鮮国王李瑑より琉球国王あて、漂流人の送還に謝し、返礼する書簡(二四六一、七、七)

朝鮮国王李瑑¹、琉球国王殿下に奉復す。

書を承けて起居の佳勝なるを知り、仍お厚賜を奉じ欣感して交拜す。弊邦と貴国と壤地相い寛かなりと雖も、雅より隣並の義有り。王乃ち遠く信使を遣わし用て殷勤を致す。又、漂去せる人口を刷還し、流離を免れ室家相い保つを得しむ。王の賢に非ざれば、交隣を慎重すること未だ是くの如くする能わざるなり。去る戊寅の年、吾羅沙也文還るの時、不腆の綿紬二百一十四・綿布一千三十一匹もて付送して用て厚意に答う。今、弊産を將て謹んで回价に付し、少しく謝悰を布ぶ。領納せらるれば幸なり。海波遼闊にして耗を致し艱なり。余、冀わくは序に順い自奮せんことを。

天順五年(一四六一)七月初七日

注(1) 李瑑 第七代国王、世祖。在位一四五五―一六八年。

(2) 書 琉球国王の書簡。『李朝実録』世祖七年(天順五)五月己巳の条に収録されている。

(3) 信使 『李朝実録』世祖七年六月辛未・六月丁丑の条に僧徳源とある。

(4) 刷還 他国に流浪した自国人を連れ帰ること。この漂流人については、前注(2)の『李朝実録』には「孔佳等二名」とし、前注(3)の『李朝実録』六月丁丑の条には「羅州住の船軍の梁成、錦山住の私奴高石寿」とある。

(5) 戊寅の年 天順二年(世祖四年、一四五八)。この年、琉球国王の使者吾羅沙也文が漂流人を送還した(『李朝実録』世祖四年二月乙卯の条)。

(6) 吾羅沙也文 博多か対馬の人であろうとされる(田中健夫『中世対外関係史』東京大学出版会、一九七五年、三〇三頁)。

(7) 綿紬 粗繭や真綿からつむいだ糸で製した織物。つむぎ。

(8) 綿布 朝鮮における綿布の生産は、高麗期に中国から木綿の種子が伝来して始まり、李朝では主に慶尚道・全羅道・忠清道で産出した。木綿が日本への回賜品に登場するのは世宗即位年(一四一八)以降で、木綿を生産しない日本が強く希望し、成宗朝(一四七〇—一九四)にはその流出はピークに達した(前掲田中著、一七二—一五頁)。

(9) 回价 帰る使者。价はつかい。

(10) 序に順い ものごとがうまくゆくこと。

(11) 自畜^{シヨク} 自愛に同じか。

1-39-04

満刺加国王より琉球国王あて、返礼の書簡

(一四六七、三、二〇)

満刺加国王、謹んで琉球国王殿下に奉る。

蓋し聞く、土有れば此れ生有り、生有れば此れ用有り。苟くも貨生の鬪殖を以てせざれば、又奚んぞ生用の足自を得んや、と。

稔知するに、上国の民生富庶にして物産豊登なるは、此れ賢王の仁徳の至りに由る。之れ天下、九天の下天下に知らしむるなり。

弊邦相い去るも、交遠の情愈^{いよいよ}堅く既に数載の余なるに因り、使

臣・頭目・通事等を差^さわし宝物を装載し到来するを蒙る。咨典は後に収辦す。礼信の往来、嘗^{つね}嘗に懐^{こころ}に銘刻す。人を差^さわし前來するを行わんと欲して未便なるも、此れを准くるを蒙るが如きは未だ尽さず。茲^{こゝに}者特に謹んで礼物を齎^こ堅し、上国王殿下に前來す。乞^{こゝに}望^{ねが}わくは笑留すれば是幸なり。以て寸忱を叙べん。使臣の頭目の交遊する有り、称晴^{せうせい}して以て畢^{おひ}れば風迅^{ふうじん}にて回還せしむ。須らく奉に至るべき者なり。

今、礼物を開す

好⁴三連打布二十四

椒⁵達布十四 細椒達布九匹

南⁶嘆^{ねが}哪布十一匹

共に計五十四

成化三年(一四六七)三月二十日

注 (1) 稔知 審らかに知る。

(2) 称晴 称情に同じか。心にかなう、の意。

(3) 風迅 迅は同音の汎と同じに用いられていて、季節風のこと。

(四六〇—二)注(13) 参照。

(4) 好三連打布 ベンガル産の上質の綿織物シャウタル(chautar)の一種か。『瀛涯勝覽』榜葛刺国(ベンガル)の条に「沙楊兒。闊二尺五、六寸。長四丈余。如好三梭布一般」とある。トメ・ピレス『東方諸国記』は三種類のシャウタルがあると記す(一七七頁および一九八頁訳注を参照)。マラッカで珍重され高価